

JAMAツールの適切な使用・保管方法の 具体例について



一般社団法人自動車再資源化協力機構

はじめに

本資料はエアバッグ類車上作動処理に使用いただくJAMA方式SRSエアバッグ車上作動処理ツール(JAMAツール)の故障を防ぐための適切な固定・保管方法の具体例と示したものとなります。

2020年現在、JAMAツールは販売開始から15年以上が経過し、修理や買替えの依頼が年々増加しております。また、製造から長期間が経過したことで内部部品やパーツの欠品が発生し修理や買替えに時間がかかる状況となっております。

このことから、皆さまの故障による解体作業の遅れや修理費用の負担を減らし、安全な作業を実施していただくため「エアバッグ類車上作動処理における遵守事項 第5項」における適切な使用・保管方法について具体的な方法を定めることといたしました。

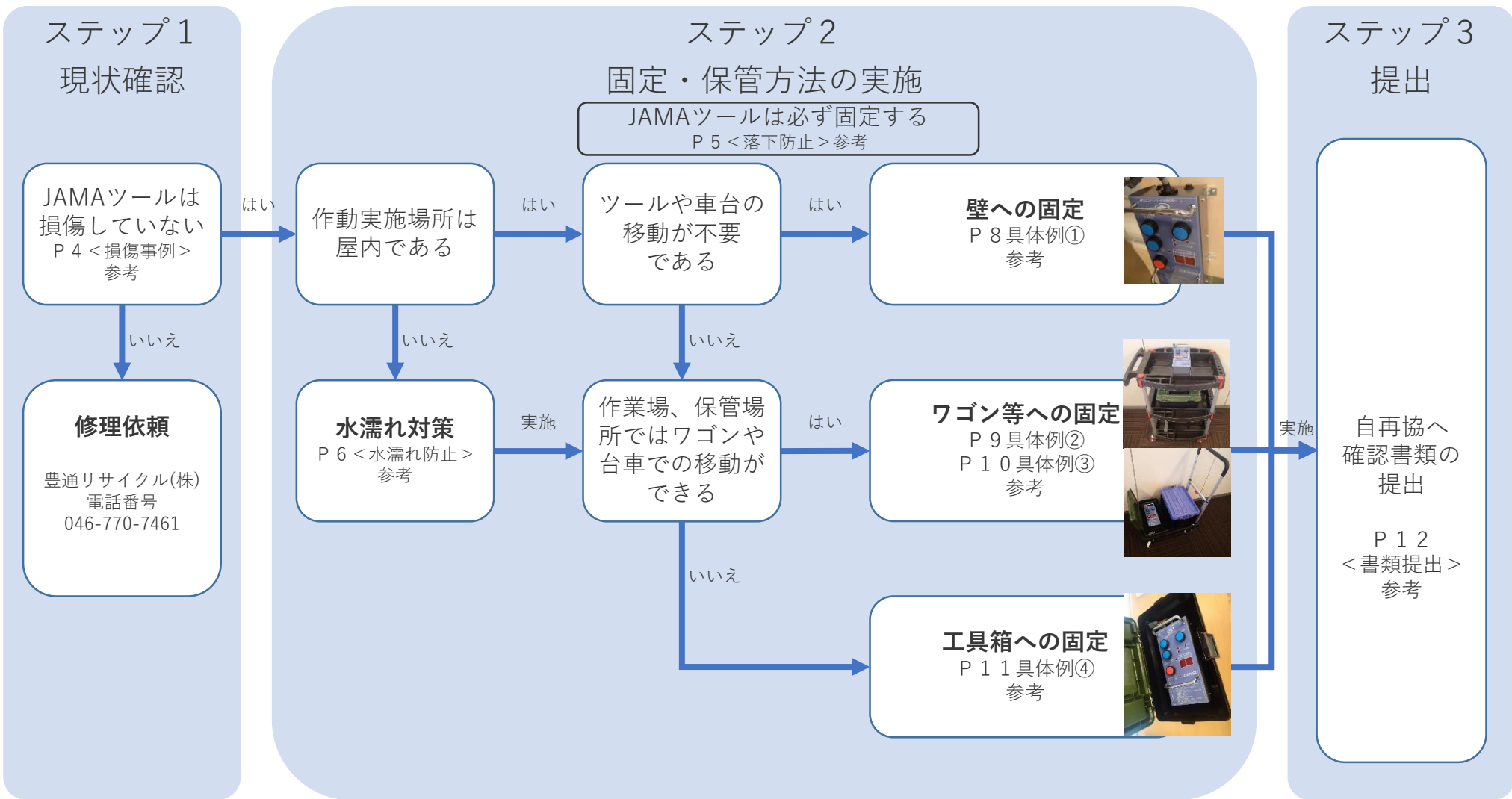
本資料は日本自動車リサイクル機構加盟され、JAMAツール購入後15年以上修理せずに使用されているエアバッグ類車上作動処理業者様等のJAMAツールの使用・保管方法を参考に作成していることから、とても有効な対策と考えております。必ず本資料を参考に適切な使用・保管方法を定めていただき、実践ください。

尚、JAMAツールが故障してしまった場合や外装が破損してしまった場合、正常に作動処理ができなくなる恐れがありますので、直ちに使用を中止し、速やかに修理を依頼ください。

※本資料の内容は必ずしもJAMAツールの故障を防ぐことをお約束するものではありません。また、本資料記載の方法によって、JAMAツールが破損し、修理が必要となった場合であっても、費用などの補償もできかねます。

JAMAツールの適正使用・保管方法の選定フローチャート

JAMAツール使用・保管方法は確立するにあたり、以下を参考に実施方法をご検討ください。



軽微な損傷であっても速やかに修理依頼ください！！



軽微な損傷を放置したことが原因で修理不可となる事例が多く発生しています。

サーキットプロテクタの損傷



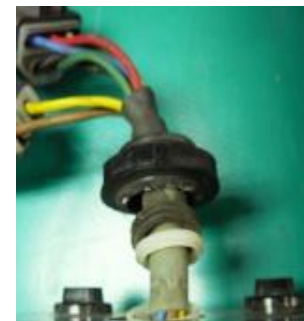
ボタンの損傷、周囲ガードの脱落



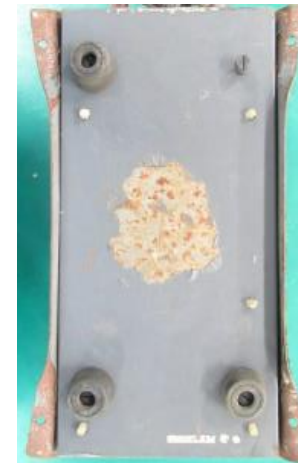
パネルの割れ（反り）



接続コネクタの割れ、変形、ケーブルロックの割れ、分離、ぐらつき



ケースの変形、割れ、部品の欠落



<落下防止> JAMAツールの固定について



本体の固定

落下による損傷を防ぐため、金具やねじ・結束バンド等を使って、壁や台車等に固定した上でJAMAツールを使用してください。

※留意点※

JAMAツール底面の水濡れ防止対策が必要となります。

👉 ポイント

おすすめの固定方法

壁やワゴンに固定する際には、必ずJAMAツールの底面左右の取付穴 (M3) をご活用ください。
L字金具を使用することで、容易に固定ができます。

尚、ワゴンに固定する場合、長めのL字金具で本体を4-5cm程度底上げすると、底面の水濡れを防ぐことができます。

<水濡れ防止> JAMAツールの水濡れ対策について



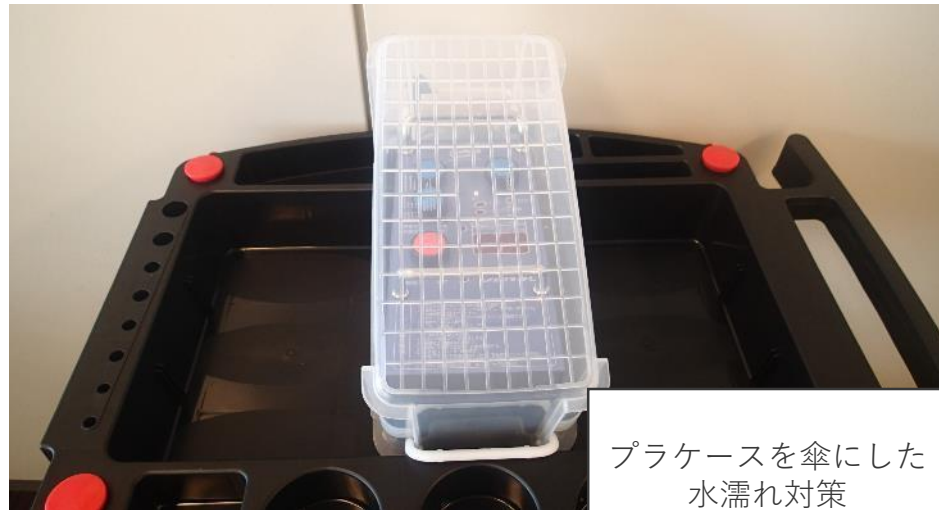
工具箱の蓋を傘にした
水濡れ対策

水濡れ対策の実施

屋外でJAMAツールを使用する際は急な雨などによるツール内部への水の侵入を防止するため、別途水濡れ対策を行ってください。

※留意点※

気温や湿度によっては、JAMAツール本体が結露・湿潤することがありますので、自社の使用環境に応じた対策も併せて、ご検討ください。



プラケースを傘にした
水濡れ対策

👁️ ポイント

おすすめの水濡れ対策

本体を覆えるプラチックなどのケースを常に用意しておき、雨天時などすぐに覆えるようすると、操作性を損なわずに水濡れを防止できます。

JAMAツールの固定・保管方法の具体例について

①壁への固定 (P 8 参照)

オススメNo1



②ワゴンへの固定 (P 9 参照)

オススメNo2



③台車等への固定 (P 10 参照)



④工具箱への固定 (P 11 参照)



具体例① 壁への固定



屋内の壁に固定
※日光・雨が当たらない
ように注意

車上作動処理実施場所が屋内にありツールの移動が不要な事業所に向いており、当機構が最も推奨する方法となります。

特徴

JAMAツールを屋内の車上作動処理場所付近の壁に固定し使用することで運搬時の落下や水濡れなどのリスクを防ぐことができます。

設置方法

JAMAツール底面左右にある穴にL字金具を取り付け、壁に固定します。固定する場所はボタン操作しやすく、壁を遮蔽物とできる場所が望ましいです。

保管方法

屋内で直射日光や雨などが当たらない場所を選定ください。



L字金具を取り付けて
壁に固定



注意点

- ・ 固定する際には、本体の分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・ 固定する壁は直射日光や雨などが当たらない場所を選定ください。
- ・ 廃液や重機などが当たらないよう高さにご留意ください。
- ・ 落下しないように入念に固定ください。

具体例② ワゴンへの固定

事業所内にてJAMAツールを移動させるなど小回りのきいた作業が必要な事業所に向いています。本方法は、推奨2番目となります。

特徴

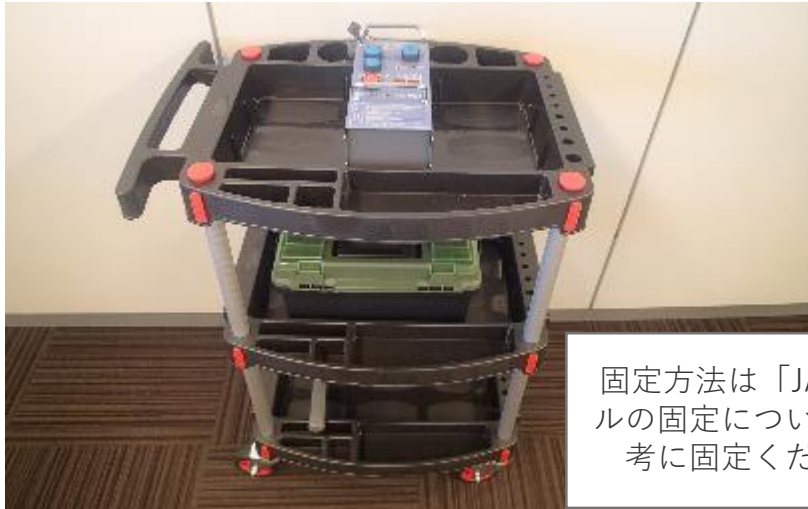
JAMAツールをワゴン最上段または2段目に固定し、JAMAツールに接続するバッテリーをその下の段に設置することで、ツール本体にバッテリー液等がかかることを防ぐことができます。ワゴンに車上作動で使用するツール類を一括して保管できます。

設置方法

JAMAツール底面左右にある穴にL字金具を取り付け、本体を4-5cm程度底上げし、ワゴンに固定します。

保管方法

ワゴンを倉庫、事務所内など直射日光や雨などが当たらない場所に移動させて保管ください。



固定方法は「JAMAツールの固定について」を参考に固定ください。



画像のような形状のワゴンを使用する場合、凹んだ箇所に雨等が溜まる恐れがあるため、水抜き穴を取付面に開けておくようにしてください。



注意点

- ・ 固定する際には、本体の分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・ 落下しないように入念に固定ください。
- ・ 屋外で使用する場合、前述の水濡れ対策を必ず実施ください。
- ・ 通電時は遮蔽物を別途必ず設置ください。

具体例③ 台車等への固定



箱と台車を固定

事業所内にてJAMAツールを移動させるなど小回りのきいた作業をする事業所に向いています。JAMAツールとバッテリーと並べて配置するため、別途バッテリーの転倒対策が必要となります。

特徴

JAMAツールとバッテリーを収納する工具箱を準備し、工具箱は台車にあらかじめ固定することで、移動時等の落下を防ぐことができます。それぞれ別の箱に入れることでバッテリー液がかかることを防ぐとともに、急な雨の場合にも即座に傘の役目を果たすことができます。

設置方法

JAMAツール・バッテリーともに台車に固定された箱に収納します、

保管方法

台車を倉庫、事務所内など直射日光や雨などが当たらない場所に移動させて、蓋を閉めて保管ください。



注意点

- ・JAMAツールを収納する箱はケーブル側に一定のすき間を空けられるものを選定ください。
- ※すき間が無い場合、ケーブルの変形やサーキットプロテクタの確認や復旧処置ができなくなる等の不都合が生じる場合があります。
- ・固定する際には、本体の分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・落下しないように入念に固定ください。
- ・通電時は遮蔽物を別途必ず設置ください。



具体例④ 工具箱への固定



JAMAツールの保管場所が作業場所と離れていたり、ワゴンや台車の移動が作業場内で困難な事業所に向いています。

特徴

JAMAツールを工具箱に固定しているため、持ち運びが非常に容易ですが、持ち運び時には、ハンドル部を必ず握るなど、落下等の衝撃に十分配慮する必要があります。
作業時には、工具箱を安定した作業台でバッテリーよりも高い位置に置くことで、バッテリー転倒時の液濡れを防ぐことができます。

設置方法

JAMAツール底面左右にある穴にL字金具を取り付け、本体を4-5cm程度底上げし、工具箱に固定します。
使用時は安定した作業台などに置きます。

保管方法

JAMAツールした工具箱ごとを倉庫、事務所内など直射日光や雨などが当たらない場所に移動させて、蓋を閉めて保管。



注意点

- ・ JAMAツールを収納する箱はケーブル側に一定のすき間を空けられるものを選定ください。
- ※すき間が無い場合、ケーブルの変形やサーキットプロテクタの確認や復旧処置ができなくなる等の不都合が生じる場合があります。
- ・ 固定する際には、本体の分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・ 落下しないように入念に固定ください。
- ・ 持ち運び時は落下等の衝撃を与えないよう十分配慮ください。
- ・ 通電時は遮蔽物を別途必ず設置ください。

確認書類の作成・提出方法について

① 事業所コード: 123456789104 ② 事業者・事業所名: ○×解体 △□事業所

JAMAツール 使用・保管状況確認書

③ 使用方法



④ 屋内 ・ 屋外

⑤ 保管方法



⑥

JAMAツール使用・保管にあたっての確認事項

- ・ JAMAツールを固定し、落下や衝撃の対策を講じる
- ・ 雨、塵液等に濡れないように対策を講じる
- ・ 屋外で使用する場合、雨天時など水濡れの恐れがある場合は使用しない
- ・ 直射日光や水濡れ、極端な温度変化など故障の恐れがある場所に放置、保管しない
- ・ 地面や作業場の床面などに直接JAMAツールを置いて使用しない

上記を全て守り、適切に一括作動ツールを使用・保管いたします

作成方法

別紙「使用状況確認書」下部の⑥ JAMAツール固定・保管にあたっての確認事項をご一読の上、必要事項を記載ください。

- ① 解体業の事業所コード（12桁）を記入ください。
- ② 解体事業者・事業所の名称を記入ください。
- ③ JAMAツール使用方法の写真を添付ください。
- ④ 使用場所について該当するものにチェックしてください。
- ⑤ JAMAツール保管方法の写真を添付ください。

提出方法

メールまたは郵送にてご提出ください。

・メールでの提出方法

以下アドレスに件名を【ツール】として提出ください。
sadou@jarp.org

・郵送での提出方法

〒105-0012

東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館16階
(一社) 自動車再資源化協力機構

車上作動処理チーム宛